

<新年のご挨拶、そして音楽への想い>

明けまして、おめでとうございます。
昨年だけでなく、ずっと皆さんにはお世話になりっぱなしです。
皆さんの応援で音楽を続けられています。
本当に幸せなことだと思います。

現在のような音楽活動を美枝子さんと二人三脚ではじめたのが1990年ごろです。
そもそも音楽活動をはじめたのは19歳の時ですから、もうかれこれ50年以上の年月が経ったことになります。
いや、音楽に出会い始めたのは小学6年生頃からですから、いやはや、よく続けられたものです。

音楽活動だけでなく、人生の72年は、なんと長いことでしょうね。
あまりに沢山のことが起こり、そして過ぎ去っていきました。
それはまるでジェットコースターに乗っているがごとしです。

でも、まだ人生の軌跡を思い起こしてみたいという気持にはならないようです。
記憶をたどって、感傷に浸りたいとは思っていないようです。

というよりは、ようやく過去から引きずっていたものから、開放されたような気がしています。
さまざまな囚われ、拘りが抜け落ちて、今は本当に楽になりました。
何かしらの見定めがついた気分でのいるのでしょうか。

そして残されたのは音楽だけだと云う気がします。
音楽への執着だけは手放せないですね。
新たな年を迎えて、より一層、音楽に邁進していきたいと思っています。
やっと音楽だけに向き合う時期が来た、そんな気がしています。

自分にとって音楽とはなにか？自分の音楽はどこにあるのか？どんな音楽をやるべきなのか？そんな問いを発している暇もなさそうです。ともかくやるしかない。音楽を一つ一つ、その時その時、内側に沸き起こるモチベーションを、そのつど完全燃焼させながら、息絶えるまで続ける。

こんな風な想いは、実は懐かしいものなんです。19歳で音楽を始めた時も、40歳にソロ活動をはじめた時にも同じ想いを持っていました。今思い起こすと、その時の音楽への執念はただならぬ物がありました。

そして、この年齢になって、もう一度その原点に立ち戻った、いや、やっと初めてほんとうの意味での出発点に屹立した気もしているのです。

さて、残りの人生、どんな音楽人生が待ち受けているのか、本当にわかりませんが、どうか応援よろしくおねがいします。

2022/01/01

ウォン・ウィンツァン